

# 中小 タイ展開に同居の力

## 集合賃貸の工場 修業積み独立

タイのバンコク郊外にある東京都大田区の中小企業が集まる賃貸工場から、初の「卒業生」が巣立つ。経験を積んだ1社が自前の工場を近くに建て、来夏から独り立ちする。

バンコクから南東へ高速道路で約1時間のチョンブリ県アマタナコン工業団地。敷地面積は24平方キロ、大田区の面積の4割ほどの広さだ。その一面に「オオタ・テクノパーク（OTA TPC）」があり、大田区に拠点がある中小企業6社が身を寄せる。



写真は、大田区産業振興協会提供

その1社の「南武」は、創業56年目の油圧シリンダーメーカー。比較的簡単に作れる製品の製造拠点を、人件費が安い海外につくろうと2002年にタイへ出た。当初は取引先の工場の一部を間借りしていたが、06年6月にOTPCの開設と同時に入居した。

見知らぬ土地で中小企業を持つ情報は大企業に比べ少ない。入居者同士の交流が心の支えになった。足りない機械を貸し合ったり、家主との家賃交渉で協力したりした。現地を仕切った南武の野村伯英副社長（38）は「海外でやる自信はOTPCでついた」と感謝する。ただ、苦労も多かった。社員がなかなか定着しないため、サッカー大会やパーティーを催して職場への親しみを育んだ。幽霊のうわさが広がって社員が夜勤を拒んだため、僧侶を呼んでおはらいしてもらったこともある。だんだん辞める人は減り、現地社員60人態勢が軌道に乗った。

東南アジア各国で取引先を開拓して事業を拡大。OTPCが手狭になってきたため、2億5千万円を投じて近くに6400平方メートルの土地を購入した。来年6月から新工場を動かす予定だ。OTPCの窓口である財団法人・大田区産業振興協会によると、区内企業からの海外取引相談は、09年度の423件が10年度は898件へ倍増。OTPCの南武の跡地にも、4社が入居の意思を示している。（志村亮）